

ひらつか消防・防災フェアに自衛隊ブース出展 防災を身近に体験

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 兒玉憲幸・陸尉）は、10月18日（土）、平塚市で開催された「ひらつか消防・防災フェア2025」に自衛隊ブースを出展した。

このイベントは「消防・防災を身近に感じ、楽しく体験しよう」をコンセプトに、市民に災害への備え（自助）の重要性を広く伝え、「災害に強いまち平塚」の実現を目指して実施された。

自衛隊ブースでは、陸上自衛隊第4施設群の支援を受け偵察バイクの体験搭乗を行い、子供たちを中心に多くの来場者が楽しみながら体験した。

また、制服試着体験、ミリ飯（自衛隊非常用糧食）の紹介、災害時の活動を紹介する写真パネル展示、自衛隊の制度説明を行った。

会場では「制服を着て写真を撮りたい」「実際の活動の様子がわかってよかった」といった声が寄せられ、自衛隊の活動をより身近に感じていただく良い機会となった。

平塚地域事務所は「防災意識の向上と地域との連携強化に努めるとともに、自衛隊の役割や活動への理解をさらに深めていきたい」としている。



大磯高校で防災講話 自衛隊の活動に理解深まる

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 兒玉憲幸・陸尉）は、10月20日（月）、県立大磯高校において防災講話を行った。

陸上自衛隊第4施設群第3科長の藤澤純一3陸佐が講師を務め、「災害時における自衛隊の活動」をテーマに、第4施設群の概要や東日本大震災での活動、自助・共助・公助の重要性などについて説明した。全校生徒約800人が参加し、生徒たちは真剣な表情で耳を傾け、災害現場での活動や学んだ教訓に強い関心を示していた。

続いて、平塚地域事務所の兒玉所長が「自衛隊の仕事って？」をテーマに、自衛隊の任務やさまざまな職種、自衛官の生活などを紹介した。講話のあとには「自衛隊の基地を見学してみたい」「将来、自衛官として働いてみたい」といった声も聞かれ、自衛隊への理解と関心がさらに深まる機会となった。

平塚地域事務所は「これからも地域の学校や団体を対象に、防災意識の向上と自衛隊の役割への理解を広める活動を続けていきたい」としている。

